（語学研究部）

7 月 26 日，語学研究部では，JICA 東北プラザを訪問し，フェアトレードについて学びました。これは，8 月末の多高祭で，フェアトレード商品を販売することに向けて，フェアトレードについて理解を深めることと，国際協力に目を向けることを目的としました。

講話では，現在私たちの現在の暮らしは世界中の人々との協力と支えによって成り立っていること，対等な関係で支え合うのが国際協力だということや，先進国と途上国との貿易の中で，途上国の労働環境や土地環境の悪化により，フェアトレードがスタートしたことなどを学ぶことができました。また，フェアトレードの問題点やその解決についても案が得ることができました。

【生徒の感想】

カカオ豆やコーヒー豆を作っている場所の状況とフェアトレードの仕組み，一般の仲介業者を介しての商品を流通させる仕組みを学びました。子供が親の手伝いで学校に行かずに働いていることは，その国の発展を妨げ悪循環だと思います。チョコレートやコーヒーを私たちが普段口にしている裏側にはこのような貧困があるのだと思いました。

また，JICA の活動の資金は国から支出しているということは，日本がその国を援助しているということだと思います。私はフェアトレードは援助の手段であって，それをもとにその国が自立して，その国の力で経済発展をするのが大切だと思いました。

（２年　宮城知樹）

講話をとおして，私は日本でのフェアトレードの普及率とコーヒー生産における利益の分配方法が気になりました。日本ではフェアトレードの商品の売り上げが１人あたり９０円であり，他の先進国と比べるとかなり低い水準であることがわかりました。アンケートでは買ってみたい，やや買ってみたい人の割合が約半数であったにも関わらす，売っている場所が近くにないから買わないという理由が最も多くありました。しかし，インターネットなどでも購入可能なので，近くにないから買えないわけではないと思います。広報に力を入れることで，皆さんに知ってもらい売り上げの伸びを期待できるのではないかと考えました。

（１年　渡辺夏凜）

今回の訪問では，フェアトレードに関する問題点もあることがわかりました。流通に人を多く介すると，途上国で物品を生産する人々と，消費者との間で財政的な格差が大きくなります。これを解決する手段として，ダイレクトトレードというものがあり，流通に多くの人を介せずにその差を少なくすることができます。今回の訪問学習で深く学べたという経験を活かして，積極的に国際社会へと関わっていこうと思います。

（１年　寺島祥）

JICA
Japan International Cooperation Agency